

ハイブリッドな学びで生徒の成長や学びを後押しする通信制高校 第一学院

酒井、久保らサッカーW杯戦士も卒業生

「成長実感」

Jクラブのユース選手増加

第一学院の卒業生は、日本中を盛り上げたサッカー・ワールドカップ(W杯)の日本代表にもいる。DF酒井宏樹(32=浦和)山根視来(28=川崎F)伊藤洋輝(23=シュツットガルト)MF久保建英(21=Rソシエダ)の4人だ。



第一学院の生徒から世界で活躍する卒業生に向けて、第一学院公式ツイッターを通じて応援メッセージや写真が送られた

酒井、伊藤、久保は高校時代、Jリーグ・クラブのユースチームに所属していた。トップチームに抜てきされると学業との両立が難しくなるが、通信制の同校はそうした状況にも対応できる。そのため進学先に通信制の同校を選ぶユース選手が増えているという。山根は通学コースの出身で、同校のサッカー部、そして桐蔭横浜大を経てプロ入りした。

今回活躍した4人の他にも、香川真司(33=シントトロイデン)原口元気(31=ユニオン・ベルリン)柿谷曜一朗(32=名古屋)ら、代表経験者も同校に在籍していた。

サッカー以外にも水球の稲場悠介、スケートボードの西村碧莉といったオリンピック選手や、スポーツクライミング、スノーボード、ロードバイク、BMX、サーフィン、ゴルフ、新体操、テコンドー、ボウリングなど各スポーツの線で活躍する卒業生を輩出している。



第一学院では、自分のペースに合わせて高校卒業を目指すことができる

「成長実感発表会」だ。ただ発表するだけでなく周りからフィードバックをもらうことでさらなる成長エネルギーにつながっている。学びにおいても、オンラインや通学、多様なコースから自分にあった学びができて、卒業の「先」も共に考えていく。夢や目標の実現、25歳での進路定着のために1人1人に寄り添った希望進路実現へサポートしている。

「学び」コース充実 第一学院の教育の基軸は「成長実感型」だ。生徒が日々の生活で感じる小さな「成長実感」を自信にしてさまざまなことにチャレンジしていく。また、地域全体を「学校」と捉え、地域や地域とつなが

全国に54のキャンパス

このような学校生活で得た経験を仲間や保護者、お世話になった地域の方々の前で発表する集大成のイベントが「成長実感発表会」だ。ただ発表するだけでなく周りからフィードバックをもらうことでさらなる成長エネルギーにつながっている。学びにおいても、オンラインや通学、多様なコースから自分にあった学びができて、卒業の「先」も共に考えていく。夢や目標の実現、25歳での進路定着のために1人1人に寄り添った希望進路実現へサポートしている。

第一学院は、主要都市を中心として全国に54(2022年4月時点)のキャンパスと台湾に提携校を持つ、通信制高校だ。「生徒第一」「1/1の教育」を教育理念とし、夢の実現と学業の両立をさまざまな角度からサポートしている。りのある方々から、働く喜びや大切さ、仕事について学ぶ機会がある。その中で注目を集めているのは、地域の方と連携をしながら生徒がアクションを起こして取り組んでいる独自のプロジェクト型学習だ。身近にある問題や地域の課題を発見し、解決するチャレンジをしている。神戸キャンパスでは、職業体験を通してカフェの仕事を知ることが目的に、地元のカフェとメニュー開発から一緒に取り組み、オリジナルパフェ、クッキーを企画、販売した。また、四日市キャンパスでは地元商店街の活性化のため、若者目線で商店街を紹介。お店を取材し、SNSや動画サイトで情報発信している。各プロジェクトを通して「自ら考え解決する力」「協働で問題を解決する心」を鍛えることができ、「変わるきっかけになった」と話す生徒や保護者も多い。

「デジタル自分未来史ファイル」に日々の記録、地域と連携しプロジェクト型学習も

「1/1の教育が理念」